

オムロン株式会社 2015年度1Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)

(2015年7月30日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 景気循環に影響されない経営は行えるのか？

A: 景気循環の影響を受ける面は避けられないが、その中でも自助努力により事業成長に繋がる構造作りを進めている。例えば中国では成長業界に集中的にアプローチすることで、景気が悪い中でも成果を出しつつある。今後も持続的な成長構造作りに力を入れていく。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 1Qの営業利益率が前年同期比で伸びた理由は？

A: 高付加価値な商品の売上高比率が向上したことによる商品ミックスの改善に加えて、成長業界に注力した営業活動の成果が営業利益率の向上に繋がった。

Q: 中国の1Qの売上高は為替影響を除いて前年同期比でどの程度か？

A: 為替影響を除いてほぼフラット。繊維など厳しい業界がある一方で、デジタル向けなどの業界では売上高を伸ばし、全体では横ばいとなった。

Q: DT社の収益性は？

A: 営業利益率はIAB全体の水準には届かないが、2ケタ程度はある。

Q: DT社の買収金額は？

A: 買収金額は3ケタ億円くらい。

Q: DT社はオーナー企業か？

A: オーナー企業です。

Q: DT社を買収するに至った経緯は？

A: 技術提携の交渉を始めたのが最初のきっかけ。その後、両者の経営の方向性を検討する中で、買収に至った。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: 1Qの大幅増収に対し、営業利益が横ばいの理由は？

A: NS社のPMI費用がかかっていること、またHCBは円安ユーロ高が利益に対してマイナスに作用するため、営業利益は横ばいとなった。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 環境事業の売上高が今後回復する根拠は？

A: 電力会社による系統連系手続きの遅れが解消することや、パワーコンディショナの流通在庫が適正水準に落ち着くことで、下期から売上高が回復すると見ている。また、蓄電など新しい分野で売上高を伸ばすことも考慮している。

Q: 今期に計画していたバックライト事業の売上高が来期に期ズレすることはあるのか？

A: 来期に期ズレするとは見ていない。3Qから売上高が拡大すると想定している。
